

コロナ・パンデミックと ケアワーク

日本学会協議連携会員

京都産業大学教授・京都大学名誉教授

落合恵美子

コロナ下の家族に何が起きたか

2020年4月7日、第1次緊急事態宣言が発せられた。繁華街から人影が消えた一方、スーパーマーケットや商店街、公園や遊歩道などにふだん以上に人が溢れている現象にメディアも当惑し、東京都知事や大阪市長もたしなめる発言をした。大人も子供も在宅で食事の回数が増え、食材を買い揃えるだけでも大仕事なのに、それが分からず批判する人たちが多くことに衝撃を受けた。休校中の子どもを抱えたお母さんたちは、勉強を見てやりながら自分の仕事もせねばならず、悲鳴を上げていた。

**家族という密室に押し込められた人たちの実態を
見えるものにしないでほしい！**

2回の実態調査

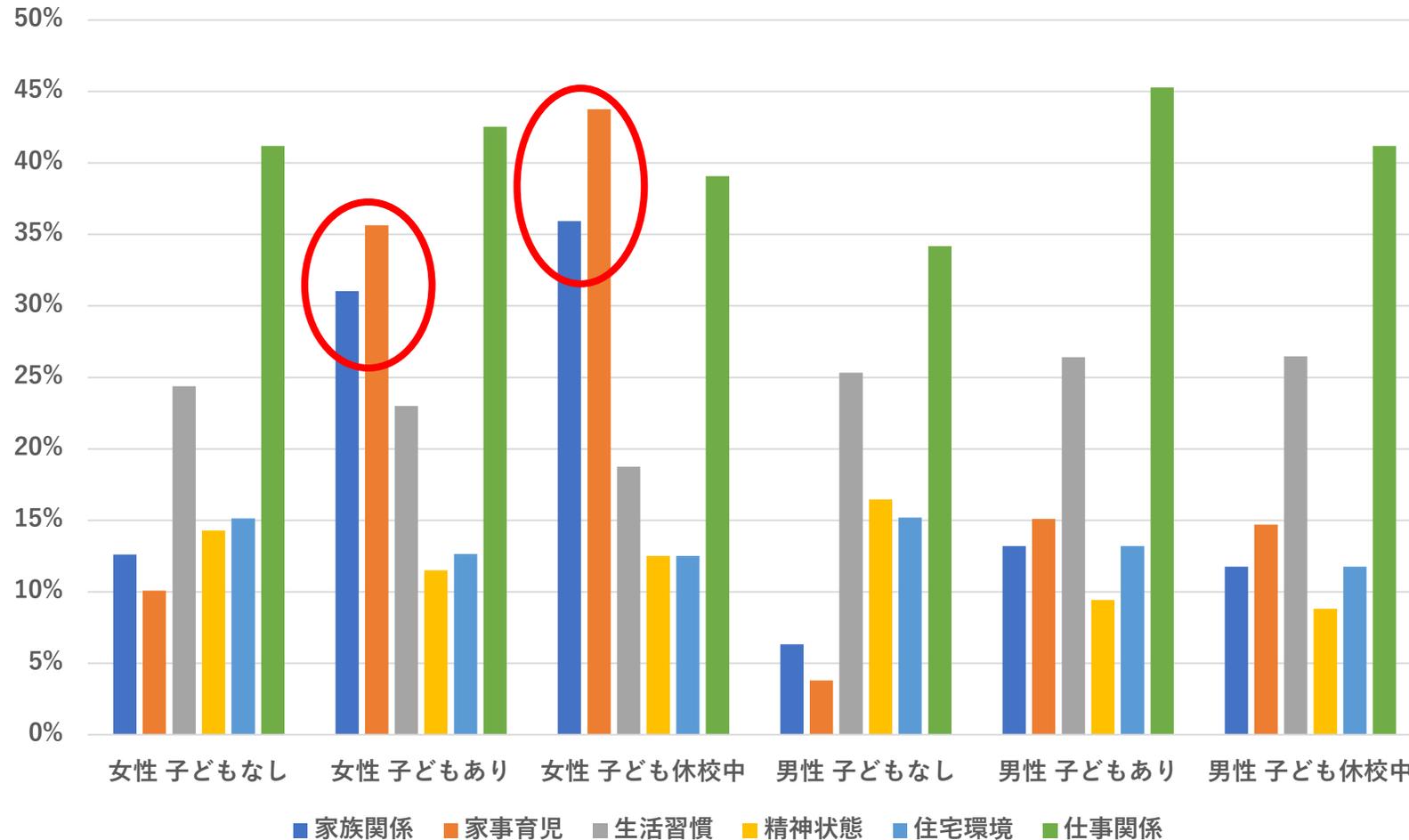
1 在宅勤務緊急調査（ステイホーム調査）

- 自分もしくは同居家族が新型コロナの影響により、在宅勤務を経験した人を対象
- 2020年4月8－15日にウェブ調査（鈴木七海と共同）

2 自宅療養調査

- 自分もしくは同居家族が新型コロナウイルスに感染して自宅療養者となった方を対象に、調査会社を介してウェブ調査を実施
- 2022年3月17～28日にウェブ調査（木下彩栄他と共同）

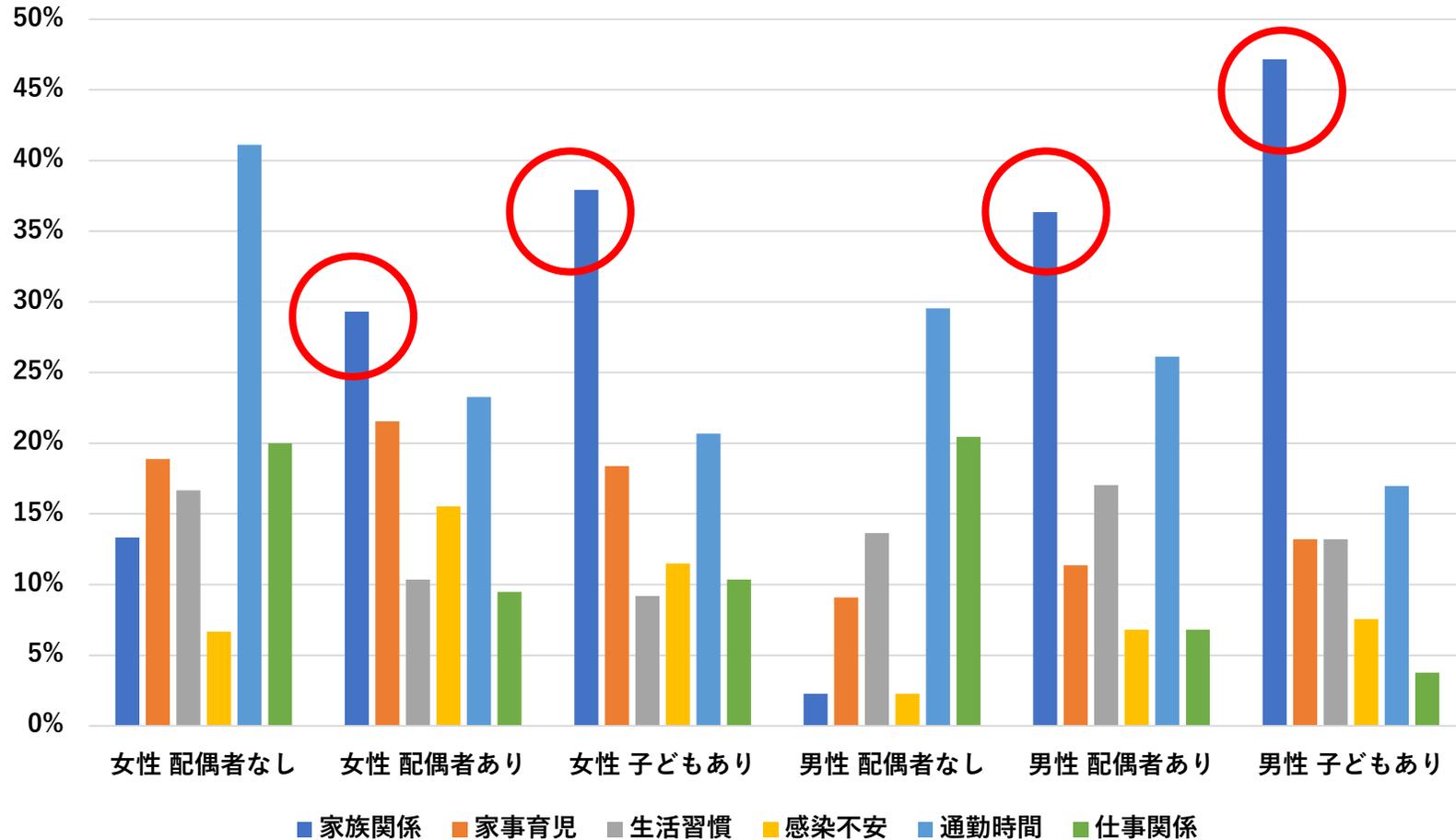
在宅勤務調査 在宅勤務で困ったこと



在宅勤務で困ったこと

- 子供の昼ごはんとは夫の昼夜ごはんが増えた。
- いつもより食材を多く消費するようになったのに、買い物リスクが高い。
- 家事の量が増加し、子どもの世話と、子どもの勉強をみることとが増えたところに、仕事量は変わらないので、睡眠時間が激減。
- 保育園に預けられなくなったので、家で夜間勤務。
- 夫は自分の仕事部屋で集中できています。私のほうは家事、子供の面倒をみながらの仕事なのでまったく集中できずはかどりません。

在宅勤務調査 在宅勤務で良かったこと



在宅勤務で良かったこと

- 家族と過ごす時間が増えた。
- 家族との会話の時間が増えた。
- 平日でも家事との両立が楽になった。
- 働きながら機械に任せられる家事が並行して片付く。
- 子どもを急かすことなく、のんびり家で過ごせる。
- 夜の会食がなくなったので毎日家族全員で食事できるようになった。
- 平日一緒にゆっくり夕食を取れる(結婚して二十数年来、初めてです(笑))。
- デスクを作り、娘は勉強、自分は仕事をしながら対面で時間を過ごす時間ができたことで、会話が増えた。

在宅勤務緊急調査の発見

1 女性への負担の集中

- ステイホームは家事育児の総量を増加させた。
- その負担はジェンダーにより不平等に、女性が多く負担した。
- しかし政府の支援も無く、しばしば夫にも十分認識されず、女性の苦闘は「シャドウワーク」だった。
- 心身のストレスで変調をきたした女性の増加。
- その秋に注目された女性の自殺の増加にも関係したか。

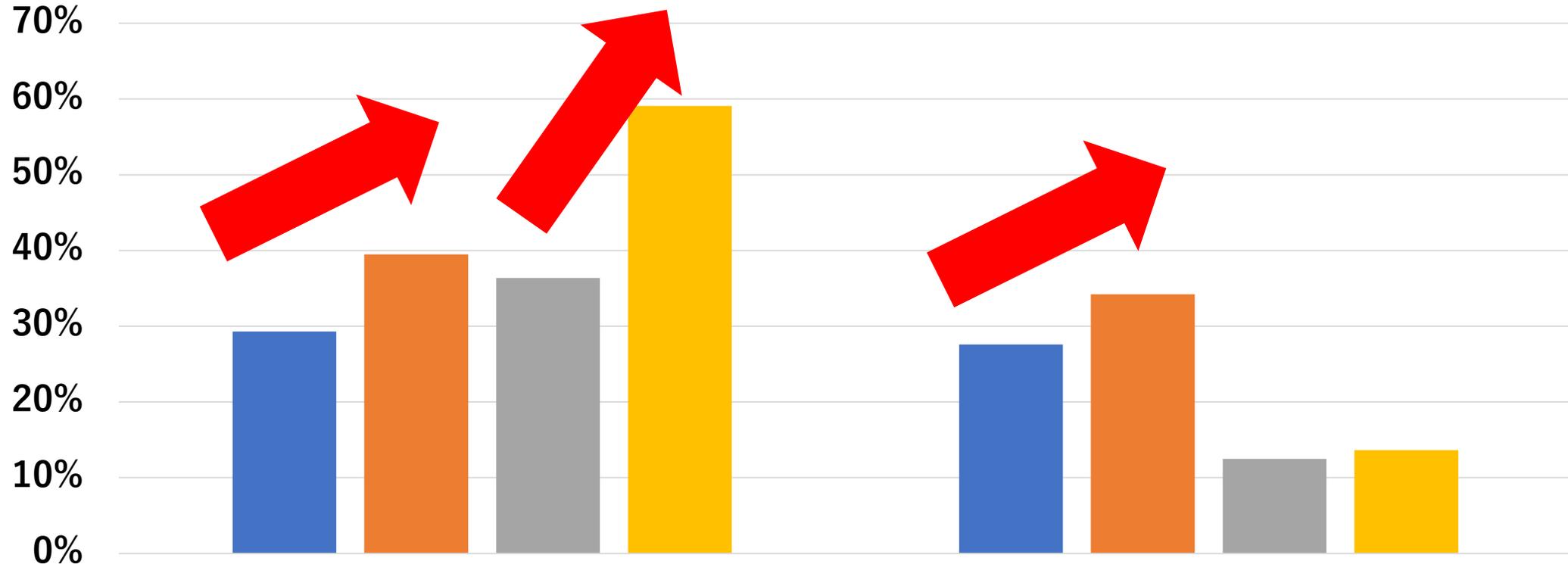
在宅勤務緊急調査の発見

2 家事やケアワークのもつ両面性

- ステイホームは家族関係を良くする効果があった。
- 特に男性、とりわけ子どもがいる男性がそう回答。
- ワークライフバランスの向上。
- ケアはただ減らせばいい労苦ではなく、生活そのものの。
- しかし負担が過重であったり偏ったりすると、心身を傷めつけ、人間関係も悪化させる。

自分の家事負担増加と家族関係の向上／悪化の認識

配偶者のある男女について



家族関係向上

家族関係悪化

■ 女性 配偶者あり

■ 男性 配偶者あり

■ 女性 配偶者あり 自分の家事負担増加

■ 男性 配偶者あり 自分の家事負担増加

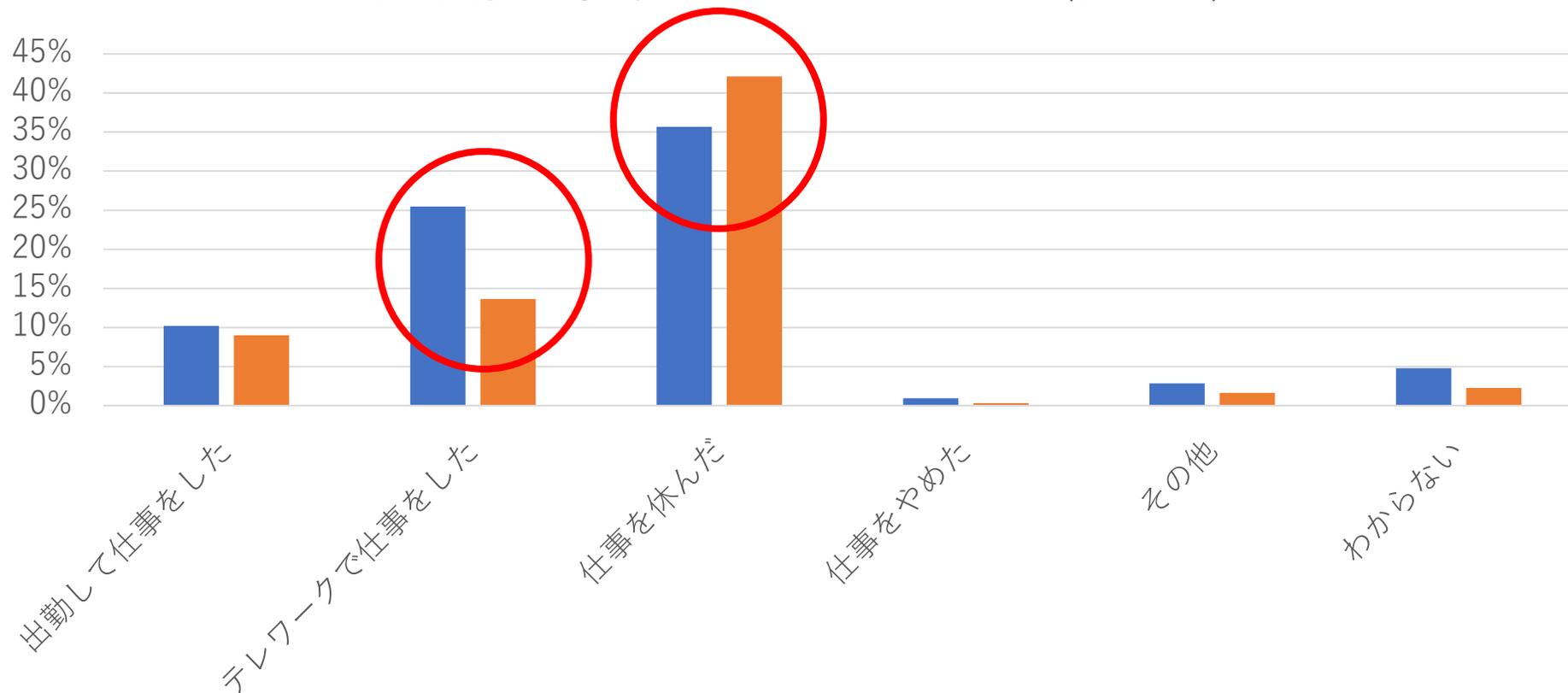
自宅療養調査 誰がケアをしたのか

自宅療養者の看病や身の回りの世話に
果たした役割が大きい順



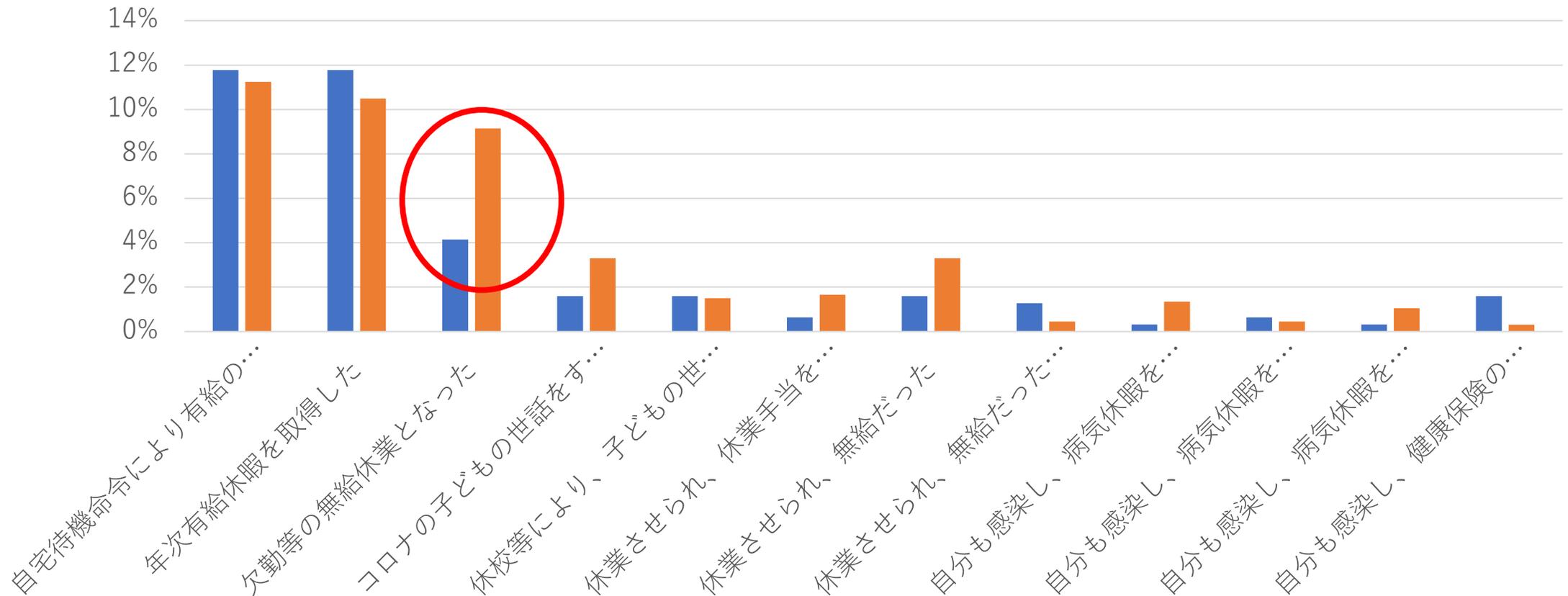
自宅療養調査 ケアの仕事への影響

自宅療養者の看病や世話にもっとも中心的役割を果たした方：
その期間は仕事をどうしていたか（男女別）



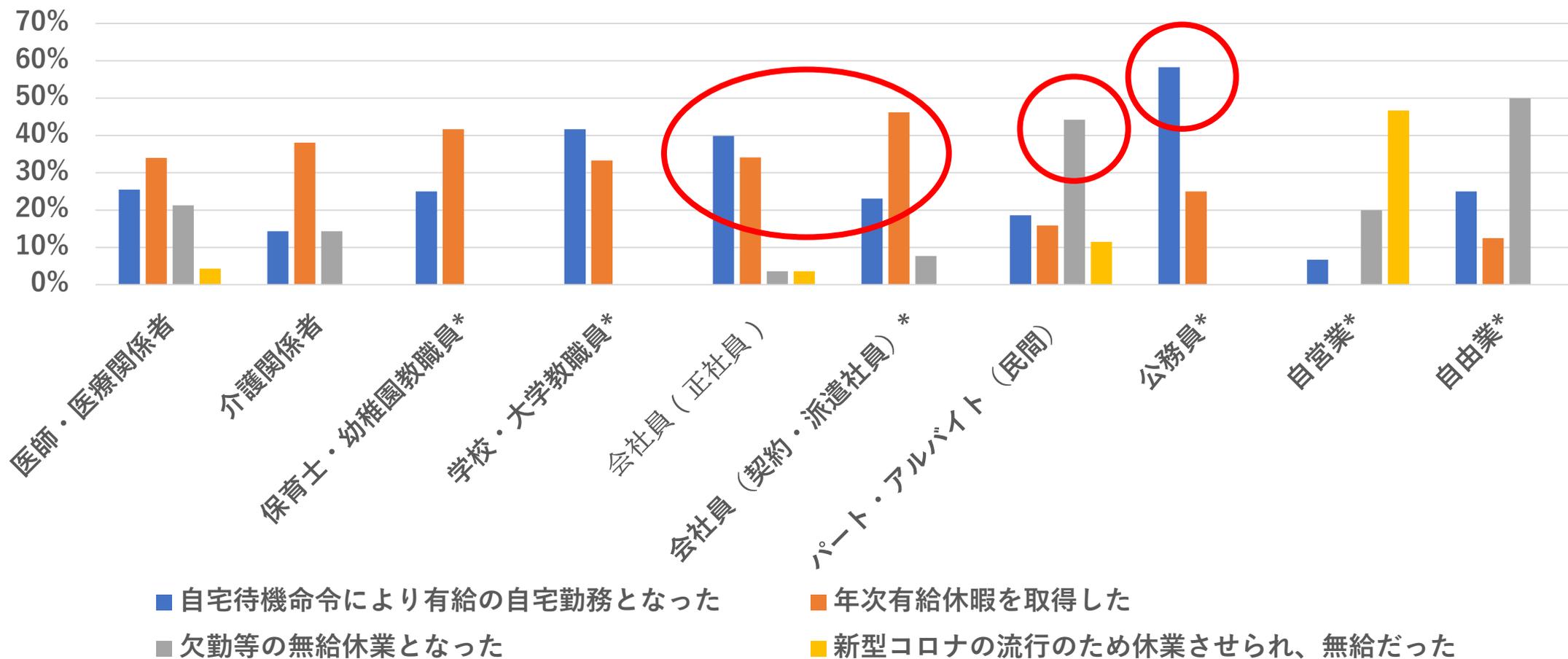
自宅療養調査 ケアの仕事への影響

自宅療養者の看病や世話にもっとも中心的役割を果たした方：
仕事を休んだ期間の扱いや給与（男女別）



自宅療養調査 ケアの仕事への影響

看病や世話のために仕事を休んだ期間の扱いや給与（職業別）



ケアの仕事への影響

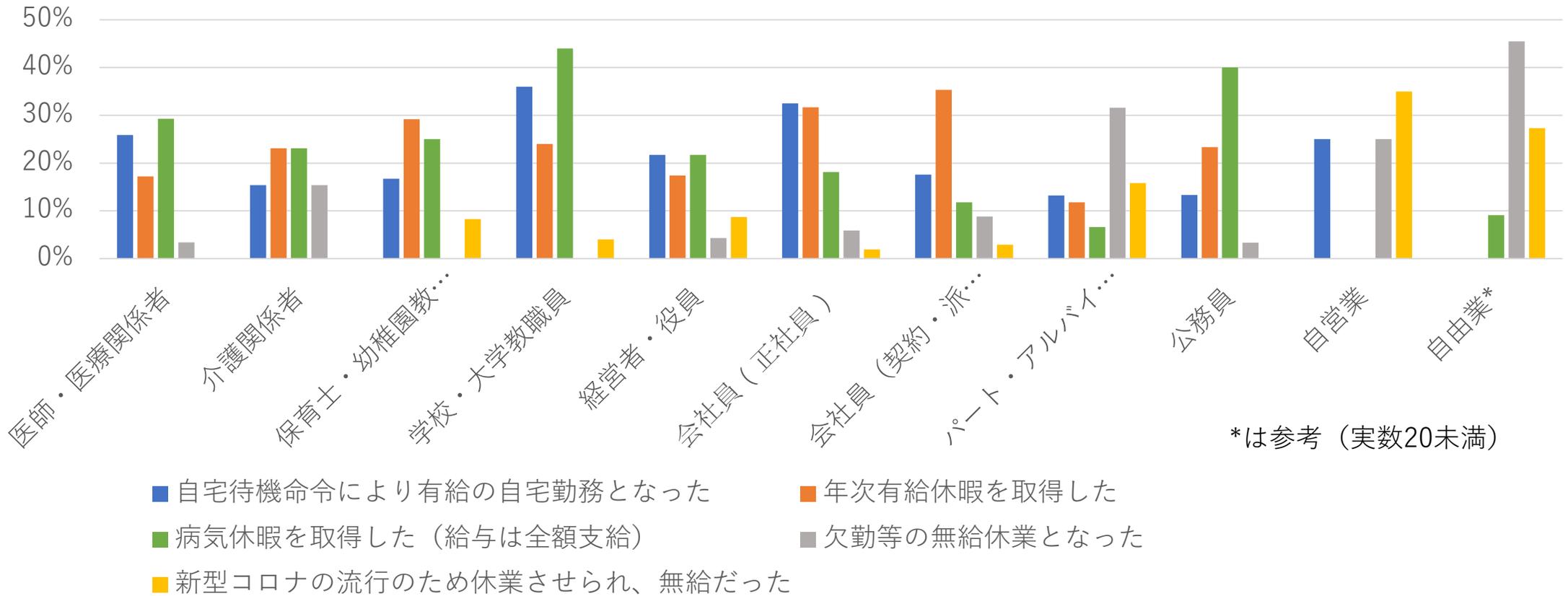
- ケアの中心的担い手となりやすい女性は仕事への影響も大きい。
- 職業による違い

就労継続	出勤	・・・エッセンシャルワーカー
	テレワーク	・・・正社員かそれに準じるオフィスワーカー
休業	自宅待機命令により有給の自宅勤務	・・・正社員等
	年次有給休暇取得	・・・・・・・・・・・・・・正社員等
	欠勤等の無給休業	・・・パート・アルバイト、自由業
	コロナのため休業させられた（無給）	・・・自営業

* 非正規職の多い女性はテレワークもできず無給休業の割合が高い

自宅療養調査 病気の仕事への影響

自宅療養者が仕事を休んだ期間の扱いや給与（職業別）



病気の仕事への影響

- 職業による違い

休業

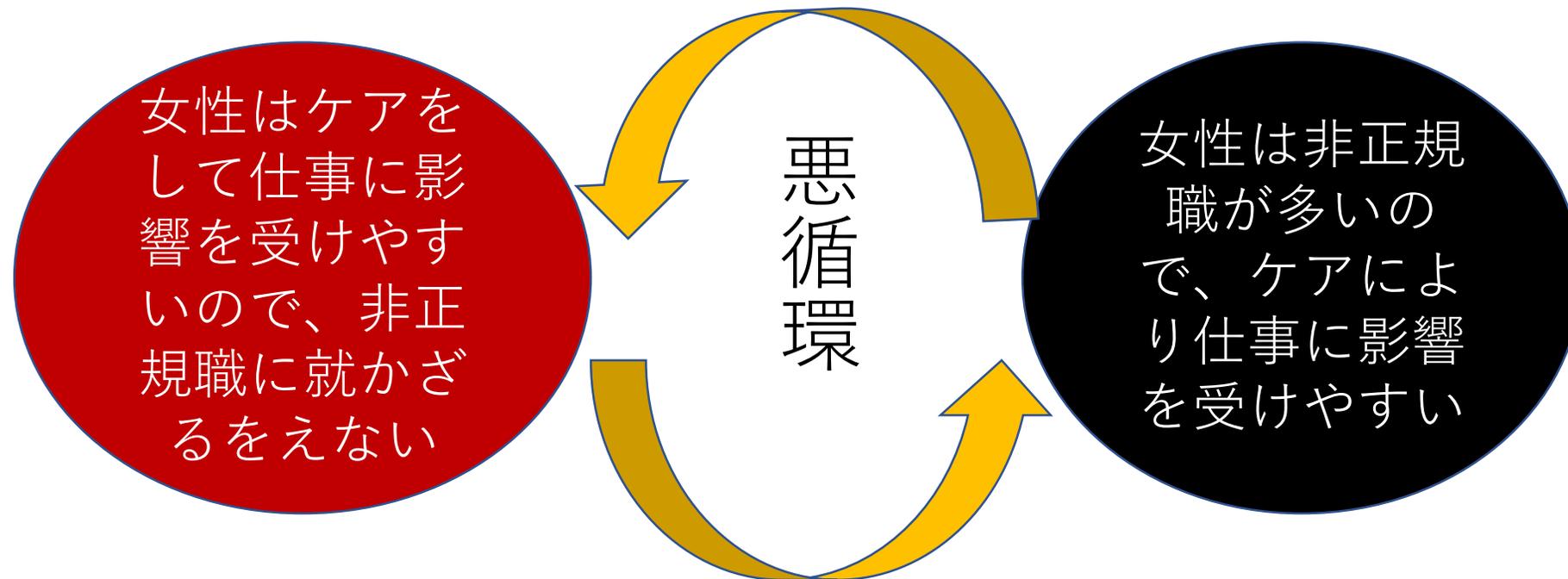
自宅待機命令により有給の自宅勤務・・・正社員等
年次有給休暇取得・・・・・・・・・・正社員等
病気休暇取得・・・公務員と23%の民間企業社員

欠勤等の無給休業・・・パート・アルバイト、自由業
コロナのため休業させられた（無給）・・・自営業

- * 「病気休暇」は一応あるのに「ケア休暇」はほぼ無い理不尽
- * 現職復帰率は自宅療養者91%、そのケアをした人71%

ケアペナルティ（ケア罰）

- ケアは不可視で評価されない。しばしば対価を得られない。
- そればかりかケアをすることで罰を受けるように損をする。



なぜこうなるのか？

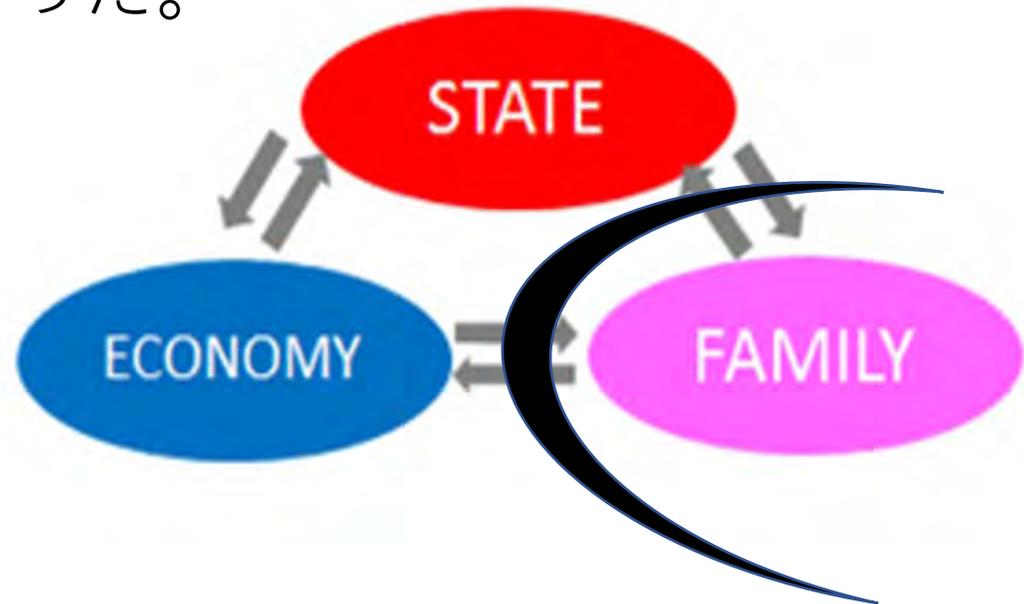
ケアを外部化した社会と社会科学

- ケア = <生> (lifeすなわち生命と生活) を支える活動
- ケアの価値が十分に評価されず、そのために費やす時間や労力が社会を回すために必要な工数として考慮されない。
- そのことによるひずみが、女性にしわ寄せされている。

- 議論の中心にあるのは常に「経済が回るか」
- 休業に伴う経済的補償は議論されても、自宅待機や自宅療養を要請された人のケアをどうするのか、ケアする役割を引き受けた人の健康や雇用をどう守るのか、感染リスクを伴う社会的ケアをいかにして維持するのかなどについて、システムティックに取り組みられてはこなかった。

ケアを外部化した社会と社会科学

- なぜケアはこれほど軽視されているのか？→答えは歴史の中に
- 近代家族の成立 = ケアの家族化と不可視化
- 国家・経済・家族の3セクターからなる近代社会の構造が作られ、「国家+経済」からなる「公共領域」からケアは放逐され、家族に丸投げされて見えなくなった。
- 社会科学は公共領域を扱う。



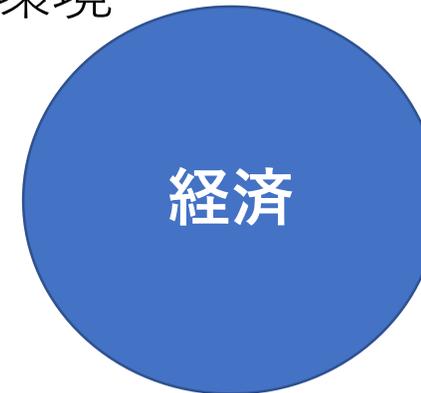
生とケアを包摂する社会と社会科学へ

- 環境問題とケア問題の同型性
- 空気や水のように女性の家事労働やケアはタダで、際限なく消費できるものであると考えられてきた。
- 外部化・「主婦化」
- 大気汚染や温暖化と同じように、人口減少や日々の生きにくさに苦しんで、ようやく問題に気づく。

Maria Mies



環境

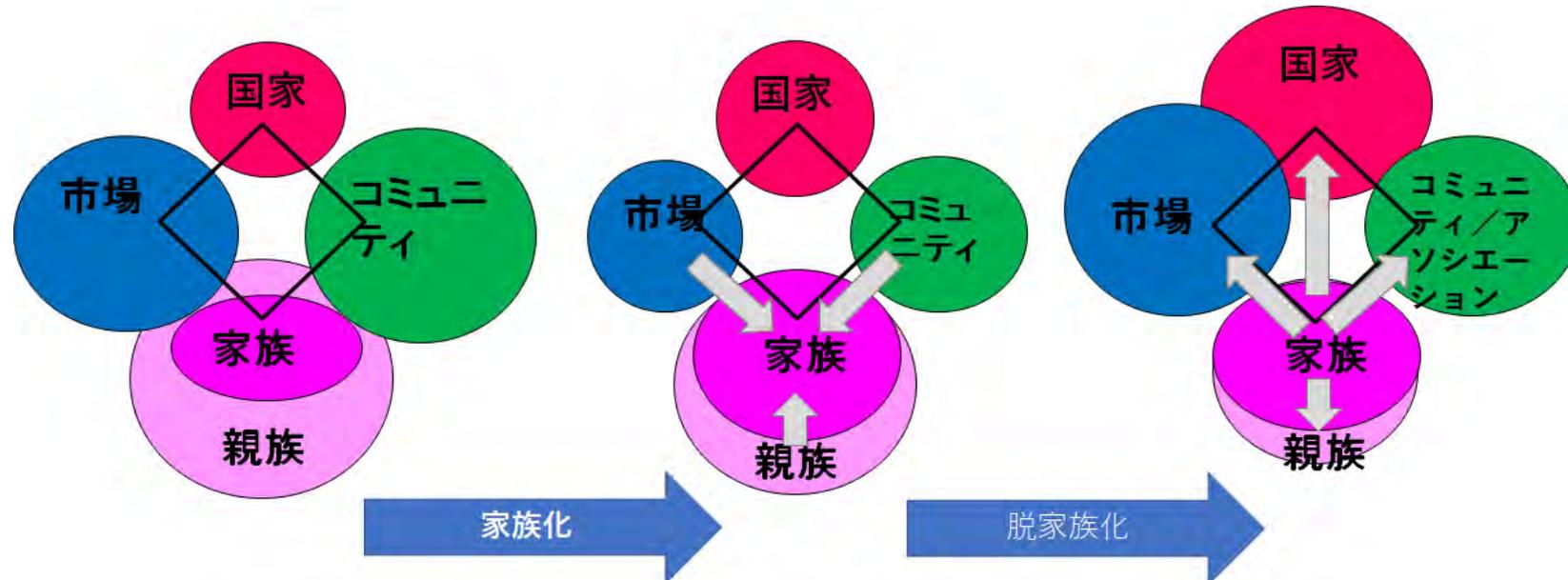


女性・ケア

第三世界

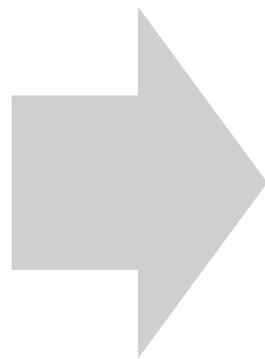
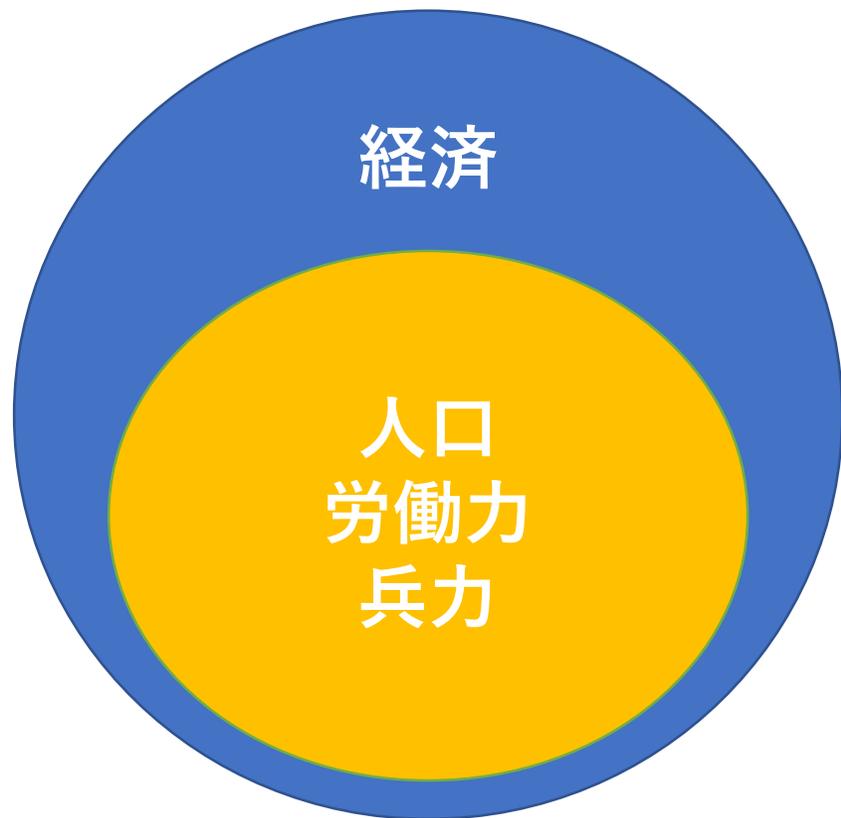
生とケアを包摂する社会と社会科学へ

- 生とケアを包摂する社会とは
- ケアの脱家族化 = ケアの社会（公共領域）への内部化
- 家族のみでなく市場・国家・コミュニティも責任/コスト分担



生とケアを包摂する社会と社会科学へ

- 「病い」と「ケア」が常態化するコロナ後の社会を正常に回すには、病気療養とケアというシャドウワークを可視化し、その価値を評価し、対価を支払うことが必要。そうしなければ適切な量の労働と時間をそのために配置することができない。
- 人口減少もそうしなければ止まらない。
- ジェンダー平等は、社会の中でケアが正当に位置付けられているかを測る指標となる。
- 有給のケア休暇を含めた「時間政策」が重要。
- 男女共にワークライフバランスのとれる働き方にして、男女共に余裕をもってケアをする時間を楽しめるようにする。
- 新自由主義的な福祉削減を止め、公共サービスを再建する。



参照文献

- 落合恵美子 2023 『親密圏と公共圏の社会学—ケアの20世紀体制を超えて』 有斐閣
- 落合恵美子 2023 「<生>を包摂する社会へ—ケアとジェンダーの視点から」 遠藤薫他編 『災禍の時代の社会学—コロナ・パンデミックと民主主義』 東京大学出版会
- 落合恵美子 2023 「Caring Society—生を包摂する社会と社会科学」 『フォーラム現代社会学』 22:79-95.
- 落合恵美子 2022 「新型コロナが露呈させたジェンダー問題とケアの危機：生を包摂する社会科学とは」 『社会政策』 13-3:42-56.